

日本老年医学会「健康長寿達成を支える老年医学推進5か年計画」中間報告

委員長名	委員会					進捗状況	今後の課題	
秋下 雅弘	あり方委員会	I	I. 老年医学・高齢者医療の普及・啓発					
秋下 雅弘	あり方委員会	I	1)	A	A 老年医学の重要性の普及・啓発	老年内科の届出表彰、コロナ禍での対策を含めたメディアへのアピール、専門医制度などを介して継続的に実施している。	アカデミア、行政、医師会へのさらなる働きかけ	
秋下 雅弘	あり方委員会	I	2)	D	D 各地方支部単位での「教育・研究・臨床」を包含したトランスレーショナル基盤の拠点整備(老年医学センターの設置)	川崎医大に高齢者医療センターと老年医学講座が設置された。南風病院(鹿児島県)が「高齢者・健康長寿医療センター」を開設予定。	全国各支部・都道府県単位の働きかけが今後の課題。トップダウンで対応しやすい私立医大への働きかけも継続、強化していく。	
秋下 雅弘	あり方委員会	I	4)	A-2	A アジアを中心とした若手老年病専門医の育成	IAGGとも連携したMaster Class on Ageing (MCA)への運営協力と講師・参加者の派遣を行っているが、コロナ禍で中断している。	MCA参加者を中心とした中堅会員による組織作りの検討。MCAのオンライン開催検討。	
秋下 雅弘	あり方委員会	I	4)	B-2	B アジア、欧米との研究ネットワークの強化	アジアでは、AWGSIによるサルコペニアの診断基準作成など研究レベルでの交流あり。欧米について、IAGG, AGS, GSA, EuGMS, GARNなどの人的交流はまだ会員個人のネットワークに依存。	IAGG2029の誘致へ向けて老年学会とも協力して働きかけていく。コロナ禍が大きな障壁。	
秋下 雅弘	あり方委員会	IV	IV. 高齢者の定義に関する研究の推進と国民的議論の喚起					
秋下 雅弘	あり方委員会	IV	1)	1)	1) 高齢者の定義に関する国民との対話の活性化	IAGG-AOG2023での新提言発表へ向けて合同WGを提案。具体的には今後。	国連総会およびWHOによるヘルシーエイジングの10年に合わせて対策を講じる。	
秋下 雅弘	あり方委員会	IV	2)	2)	2) 内閣府と連携して国民へのアンケート調査の実施	同上	上記の一部として内閣府、厚労省へ働きかける。	
海老原 覚	高齢者医療委員会	I	1)	1) 豊かな人生の最終段階を実現するための医療とケアの推進				
海老原 覚	高齢者医療委員会	I	1)	B	B 高齢者包括的医療の推進	高齢者総合機能評価(CGA)の診療報酬提案、高齢者のオンライン診療ガイドライン案の日本医学会連合への提出など高齢者包括的診療推進に向けた取り組みを継続している。	診療報酬、介護報酬での採用に向けた活動	
海老原 覚	高齢者医療委員会	I	3)	D	D 老年医学会と関連するメディカルスタッフの学会と共同した資格認定制度の設立	サルコペニア・フレイル学会の指導士、老年薬学会の認定薬剤師など関連学会のメディカルスタッフ認定制度に協力している。	今後、求められる分野を開拓していく必要がある。	
荒井 秀典	フレイル・サルコペニア小委員会	I	4)	C-1	C アジアにおけるサルコペニア、フレイルなどのガイドライン作成	アジアのサルコペニア診断基準の改訂(AWG2019)		
荒井 秀典	IAGG招致委員会(老年医学会代表)	I	4)	E	E 国際老年会議(IAGG)、アジア・オセアニアIAGGの招致	IAGGアジアオセアニア2023招致決定	IAGG2029の誘致へ向けた活動	
荒井 秀典	フレイル・サルコペニア小委員会	II	II. フレイル予防・対策による健康長寿の達成					
荒井 秀典	フレイル・サルコペニア小委員会	II	1)	1)	1) フレイル・自立介護支援に関するエビデンス構築とガイドライン整備	フレイルの国際的ガイドラインを発表		
荒井 秀典	フレイル・サルコペニア小委員会	II	2)	2)	2) 実臨床へのフレイル概念の普及	フレイル健診に対するかかりつけ医のアプローチマニュアル作成		
荒井 秀典	フレイル・サルコペニア小委員会	II	3)	3)	3) フレイル予防・対策の実践			
櫻井 孝	学術プログラム委員会	I	3)	B	B 学術集會にて他学会・組織とシンポジウムの共同企画・共同開催	共同シンポジウム・共同企画は促進されつつある		
櫻井 孝	学術プログラム委員会	I	4)	D	D 学術集會におけるEnglish sessionの設置と海外からの発表促進	委員会で方針は承認されているが、COVID19によるWEB開催が前提となり、英語セッションについてはまだ具体的に計画されていない		
海老原 孝枝	ダイバーシティ推進委員会	I	2)	E	E 女性会員(医師、看護師、メディカルスタッフ、研究者)の育成と活用	女性代議員の割合は2020年6月には15.9%となり、女性会員数も20%、専門医における女性の割合も15%を上回り目標を達成している。一方、各支部における女性支部長・会長は過去10年間0であり、女性幹事長および幹事は、関東と中国支部のみで、支部レベルでの女性の登用はなかなか進んでいない。	女性会員数、専門医、代議員数は着実に増加しているが、学会の中心となって活躍する女性会員の育成がなかなか進まない現状がある。学術集會・地方会での女性会員の座長やシンポジストへの積極登用、地方会での女性向けの企画について、大会長ならびに支部会長の理解と協力が必要。	
飯島 勝矢	高齢者医療研修委員会	I	2)	C	C 全国規模での高齢者医療研修の標準化とそれに基づく活動	他の団体(例:全老健および全日病)などとの協働による高齢者医療研修会を展開できており、参加受講者も多い	コロナ禍における高齢者医療研修会のオンライン開催とその診療報酬上の対応。研修会コンテンツの刷新や質の向上。共同開催を目指す他の団体の発掘。さらに認定医制度における地域包括ケア(かかりつけ医)対象の構築。	
葛谷 雅文	エンドオブライフに関する小委員会	I	1)	D-1	D エンドオブライフ・ケア、アドバンス・ケア・プランニング、死生学教育に関する社会的コンセンサスの形成とその教育、啓発活動の推進	1.ACP推進に関する提言の英訳をGGIIに掲載した。 2.「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行期において高齢者が最善の医療およびケアを受けるための日本老年医学会からの提言-ACP実施のタイミングを考える-」を完成した。 3.上記の提言を英訳しGGIIに掲載した。	これらの成果の普及啓発とACPの実践推進	
葛谷 雅文	教育委員会	I	2)	2) 老年医学の診療・研究・教育の拠点形成及びそのための人材育成				
葛谷 雅文	教育委員会	I	2)	B	B 医学教育モデル・コア・カリキュラムを基盤として全国の大学を結んだ老年医学教育体制の構築	1. 国内医学部へのアンケート調査は終了。 2. ハンドブック改訂は終了し、そのスライド集は完成 3. 専門医向け的事例集を構築中	全国の医学部へのアクション:何が出来るかを検討(専門医制度委員会とも協議が必要)	
神崎 恒一	専門医制度委員会	I	2)	A	A 未来の老年医学・高齢者医療を担う老年病専門医の育成	内科学会を基本領域とするサブスペシヤリティの1つとして認定の途にある。今後、専門医機構による書面審査を再度受ける予定。	専門医と指導医を増やす具体的な方策が必要	
下濱 俊	倫理委員会	I	1)	D-2	D エンドオブライフ・ケア、アドバンス・ケア・プランニング、死生学教育に関する社会的コンセンサスの形成とその教育、啓発活動の推進	第62回学術集會で倫理委員会企画シンポジウムとして、「非がん疾患における延命医療の差し控えと終了」を行った。		
新村 健	国内交流委員会	I	3)	3) 老年医学に関するガイドライン作成及び分野横断的な他学会・組織との連携強化		5領域に関する連携強化プランを提案したが、COVID19の流行で他学会との連携に関してはほとんど進展しなかった。	COVID-19流行下、国内交流の在り方については、より戦略的な取り組みが必要と考える。	

日本老年医学会「健康長寿達成を支える老年医学推進5か年計画」中間報告

委員長名	委員会			進捗状況	今後の課題
鳥羽 研二	認知症対策小委員会	Ⅲ	Ⅲ. 認知症への効果的な早期介入と社会的施策の推進	認知症施策推進大綱に貢献。委員長が有識者会議座長として主導	冊子による啓発
鳥羽 研二	認知症対策小委員会	Ⅲ	1) 1) 認知症予防に関する取り組みへの貢献	国立長寿医療研究センターによる多因子介入試験JMINT	
鳥羽 研二	認知症対策小委員会	Ⅲ	2) 2) 認知症に対する社会全体の理解を深め、認知症の人や家族の社会参加への貢献	順調に進捗: オレンジタウン、東京都、秋田	各地への横展開
鳥羽 研二	認知症対策小委員会	Ⅲ	3) 3) ICT・IoT・ロボット技術・AIなどを用いた認知症支援の研究推進	AIを用いた顔写真からの認知症判定など進捗	
三浦 久幸	在宅医療小委員会	I	1) C C 在宅医療の推進	第62回日本老年医学会学術集会および第2回在宅医療連合学会大会にて「在宅医療・介護サービスガイドライン」の啓発のためのシンポジウムを行った。	特になし
横出 正之	国際交流委員会	I	4) 4) 老年医学領域での国際的リーダーシップの強化	アジアサルコペニアワーキンググループ(AWGS)のチェアマンを務める	
横出 正之	国際交流委員会	I	4) A-1 A アジアを中心とした若手老年病専門医の育成	IAGG Master Class on Ageing 開催により若手老年科専門医を育成(COVID-19により2020年の開催は見送った)	
横出 正之	国際交流委員会	I	4) B-1 B アジア、欧米との研究ネットワークの強化	IAGG-GARNへの参加及びマスタークラス参加者間の研究交流 日韓台合同シンポジウム開催を通じた共同研究の推進	
横手 幸太郎	学術委員会	I	3) 3) 老年医学に関するガイドライン作成及び分野横断的な他学会・組織との連携強化		
横手 幸太郎	学術委員会	I	3) A A 安全な薬物療法ガイドラインの普及啓発	知識としての普及は進んだが、実践レベルではまだ不十分。改訂作業中	
横手 幸太郎	学術委員会	I	3) C C 他学会・組織と連携した高齢者の診療ガイドライン、治療指針の整備	日本糖尿病学会との「高齢者糖尿病の治療向上のための合同委員会」において、高齢者糖尿病治療ガイドの改訂が進み、2021年前半に出版の予定	
横手 幸太郎	学術委員会	I	4) C-2 C アジアにおけるサルコペニア、フレイルなどのガイドライン作成	フレイル・サルコペニア対策小委員会において、アジアのガイドライン作成と改訂に多大な貢献をした。	
横手 幸太郎	学術委員会	V	V. 基礎老化研究の育成・支援		
横手 幸太郎	学術委員会	V	1) 1) 基礎老化研究発展のため各研究機関との情報交流の場の設置	AMED「老化拠点」「ライフスタイルを通じた個体の機能低下」などのプロジェクトが発足、委員が参画している。	
横手 幸太郎	学術委員会	V	2) 2) 日本基礎老化学会との連携強化	学術集会等において、基礎老化学会との合同シンポジウムを開催している。	
横手 幸太郎	学術委員会	V	3) 3) 研究領域の拡大のためのロビー活動	国立長寿医療研究センターとの連携強化に努めている。	